

# Que Será, Será

VOL.35  
2004  
WINTER



チャイニーズフィシャネット 写真撮影：高子 忠雄

## 人生一巡り

医療法人 和楽会 理事長  
貝谷久宣



癸未(みずのとひつじ)年の師走は筆者にとつて人生の大きな節目のときでした。60歳は古来十干十二支によれば一巡りの年です。この還暦の誕生日は筆者の人生における最も忘れがたい日々の一となりました。この月曜日の朝、8時過ぎにモノレールの駅まで家内に送られ、東海道線、銀座線を乗り継ぎ、赤坂クリニクに10時前に到着し、定刻の10時に診察を始めました。13時過ぎに午前の診察を終わり、近くの和食店で昼食を摂り、14時過ぎから雑誌「ダ・カーポ」の社会不安障害についての取材を受けました。その後、2、3の来客に面談してから午後の診察を15時から再開しました。数名の新患の中の34歳の女性は非定型うつ病の典型例でした。このうつ病はパニック障害の前後に見られる普通のうつ病とは病像を異にし、筆者が「パニック性不安うつ病」という名称を提案している病態です。その新患の女性から病状を一通り聴き、診察の後半に両親のプロフィールを尋ねました。父親の人となりについてはさばさは答えていまし

たが、母親のことになると急に声を詰まらせ涙顔になりました。ああ、この患者さんも母性愛欠乏なのだ”という思いとともにパニック障害という病気の奥深さをいまさらながら感じました。パニック障害をもつばら診察するようになってから10数年経ち、パニック発作や広場恐怖は真正面から治療すれば何とかなることはわかりました。しかし、パニック障害に伴ううつ病(パニック性不安うつ病(大略を表に示します))は治療抵抗性で、本人にも家族にも大変な病態であることがわかってきました。このパニック性不安うつ病に対して従来うつ病(定型うつ病)の特効薬とされるSSRI(選択的セロトニン再取り込み阻害薬)はそれほど効果を持ちません。米国ではMAOI(モノアミン酸化酵素阻害薬)が使用されよい成績を挙げていますが、日本では認可される見込みが今のところない薬です。筆者は国内で使用することのできる薬剤を種々組み合わせ、さしあたり最も効果のある処方工夫しました。それでも、中等症以上の重症例で